

研究機関名：東北大学

受付番号：	2011-77
研究課題名	冠動脈造影による冠動脈病変の重症度と、頸部頸動脈 MRI における頸動脈ハイリスクプラークとの関連性について
研究期間	西暦 2011 年 6 月（倫理委員会承認後）～2012 年 6 月
対象材料	<input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（画像：冠動脈（血管造影）、頸動脈（MRI））
上記材料の採取期間	西暦 2008 年 10 月～ 2011 年 1 月
意義、目的	<p>Polyvascular disease は、脳血管、冠動脈、末梢動脈の複数の領域に病変を生じる病態であり、動脈硬化性疾患の生命予後を悪化させる危険因子である。このため、動脈硬化性疾患の加療における polyvascular disease の評価は重要である。</p> <p>動脈硬化性疾患では動脈壁にプラークを生じる。この動脈硬化性プラークのうち、(1) プラーク内出血、(2) 粗大な脂質コア、(3) 線維性被膜の破綻したプラーク、はハイリスクプラークであると考えられている。</p> <p>低侵襲検査である MRI を用いると、頸動脈の狭窄度や壁厚のみならず、プラーク内出血、脂質コア、石灰化などの動脈硬化性プラークの構成要素を描出し、ハイリスクプラークを同定することが可能である。</p> <p>本研究では、冠動脈病変を有する症例に対して施行された頸動脈 MRI 検査をもとに、頸動脈ハイリスクプラークと冠動脈病変の重症度の相関を比較し、頸動脈 MRI 所見が polyvascular disease の重症度の指標になりうるかレトロスペクティブに検討することを目的とする。</p>
方法	狭心症のため、冠動脈造影検査を施行された患者のうち、ほぼ同時期に頸動脈 MRI 検査も施行された 43 名。冠動脈病変の重症度と、頸動脈 MRI における頸動脈ハイリスクプラークの関連性について明らかにする。
問い合わせ・苦情等の窓口	大田 英揮 東北大学大学院医学系研究科 量子診断学分野 022-717-7312